

今回使った、
おがくずにシイ
タケ菌を培養し
た「おが菌」です



原木シイタケの 菌打ち体験

シイタケ探検隊の朝日晴佳さんと市原昌己しゅうごさんが、
健康の森でシイタケづくり（菌打ち）に挑戦しました。



▲原木に電動ドリルで穴を開けている様子



▲穴を開けた原木に、「おが菌」を詰め、フタをして「ほだ木」を作ります

一つ一つ手作業で大変

文・市原昌己

シイタケをつくる原木には、クリ、コナラ、クヌギなどがありますが、この日は昨年の12月に切ったコナラを使いました。電動ドリルで穴を開け、菌打ちをしました。ドリルで穴を開ける作業では、最初は上手にできなかつたけれど、最後の方は上手に穴が開けられました。

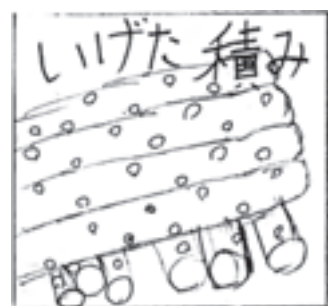
菌打ちの作業では、私たちが先に菌を打ち始めたのに、「みのかも森と林の会」の人の方が早く終わっていたのですごいと思います。

会の人から教えてもらったことは、シイタケの菌が広がるには、木の中がくさらないといけないということなのです。

始めて知ったことは、原木の積み方には、ムカデ伏せ、いげた積みなどの積み方があることや、菌には、おが菌とこま菌があり、木に空ける穴の大きさや深さがちがうということです。

シイタケの菌打ちを体験して、一つ一つの手作業が大変

ので大変だということが分かりました。



絵：市原昌己さん

シイタケが前より
好きになりました

文・朝日晴佳

シイタケはいろんな種類の本に菌を入れて作ります。この日の菌打ち体験では、コナラの本におが菌を入れました。

シイタケの菌には、こま菌とおが菌があります。こま菌は、小さくて細長い木にシイタケ菌が植え付けてあります。おが菌は、おがくずにシイタケ菌をばい養したもので、ぼろぼろとなっていてしめっています。こま菌とおが菌では、入れる穴の大きさもちがっていて、おが菌の方が大きいです。

シイタケを作るには木が必